

京都大学医学部附属病院 病院研修生プログラム

京都大学医学部附属病院は次の研修プログラムによる病院研修生を募集します。

1. プログラムの名称

微生物検査基本技術研修 I (ショートコース)

2. 診療部名

検査部

3. 研修コース名:目的、特色、特徴

卒後コース:指導者が不在の小規模施設で微生物検査を担当している(予定者含む)技師を総合的にサポートする。受講者の経験とニーズに対応するために、9コースの研修プログラムを設定している。

4. 研修プログラムの内容

別紙(研修日程表)のとおり

5. 受講対象者

臨床検査技師免許を有する者、病院、企業、検査センター等に勤務する臨床検査技師

6. 募集人数

年間10名(定員1)

7. 研修期間

1日間

8. 研修時期

研修部門との調整が必要ですので、別途相談

9. 応募期間

任意時期に受入れ可能

10. 研修料

基本 2,160円/人(税込)

11. 申請書類

病院研修生受入れ申請書(別紙様式)

(履歴書、健康診断書及び免許証のコピーを添付)

12. 出願書類提出先・問い合わせ先

<提出先>

〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町5-4

京都大学医学部附属病院総合臨床教育・研修センター 宛

<問い合わせ先>

〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町5-4

京都大学医学部附属病院総合臨床教育・研修センター

TEL: 075-751-4839

FAX: 075-751-3091

研修日程表

プログラム名称：微生物検査基礎技術研修 I ショートコース（検査部）

*A-Iのうちいずれかひとつを選択すること

教育研修期間	一日間
A. 塗抹	<p>標本作製（Miller&Jones 分類、Geckler 分類）、Nugent score（膣分泌物） グラム染色（B&M 法、フェイバーG 法）の比較、鏡検の見方、所見、報告の仕方 各種染色法（ヒメネス染色、ナイセル染色、メラー染色、チールネルゼン染色、蛍光染色、墨汁染色、ファンギフローラ Y 染色） <u>資料</u>：臨床に役立つ感染症検査 塗抹検査を中心とした微生物・寄生虫検査 臨床と微生物 31 巻増刊号. 2004, 10</p>
B. 各種培養同定	<p>分離培地の選択方法（材料別） 好気、嫌気、炭酸ガス培養の取り扱い方 用手法、同定キット（アピシリーズ、ラップ ID シリーズなど）自動機器（バイテックシステム、その他説明） 迅速検査（β 溶連菌、エンドトキシン、β-D-グルカン、ノロウイルス、ロタウイルス、クリプトコッカス、0157、尿中肺炎球菌、尿中レジオネラ、CD トキシン）</p>
C. 感受性	<p>系統別抗菌薬の特徴、薬剤耐性菌の理解と検出法 感受性検査法の原理と検査法、PK/PD（概説）、精度管理 微量液体希釈法、ディスク拡散法、E-テスト</p>
D. 遺伝子	<p>抗酸菌 PCR 法（コバスアンプリコア）、抗酸菌 DDH</p>
E. 抗酸菌	<p>バイオセーフティ、サンプリング、集菌塗抹、塗抹標本観察（蛍光・チールネルゼン染色）、培養（MGIT、小川培地、ミドルブルック 7H11）、同定（キャピリア TB、PCR、DDH）、感受性（ウエルパック、プロスミック、MGIT）</p>
F. 真菌	<p>ラクトフェノール青染色、スライドカルチャー、発芽管形成試験、クロモアガー、アピ、バイテック YBC など <u>資料</u>：Manual of CLINICAL MICROBIOLOGY 8TH ASM PRESS</p>
G. 感染対策	<p>感染制御部医師、看護師、認定臨床微生物検査技師との総合ディスカッション、病棟ラウンド感染制御認定見学、など</p>
H. 総合（初心者）	<p>感染症関連の基礎的教育、起因菌の考え方、微生物検査一連の技術習得（培地作り、無菌操作を含む）など</p>
I. カスタムメイド	<p>1 日間で可能な実習内容であれば任意設定可（要相談）</p>

担当診療科

担当者氏名

検査部門（微生物）

： 松村 康史、樋口 武史